



現場から（最近のニュースから）

夢を成し遂げる



今年、スポーツ界で大きな話題をさらったのは、メジャーリーグの大谷翔平選手でしょう。WBC での日本の優勝に貢献し、結婚を発表、直後に専属通訳者がギャンブル依存症で多額の不正送金をした事件が明らかになり、大変な中のスタートでした。しかし、その騒動によって、より人間的にも成長して、チームにも溶け込み、MLB 史上初の 50 本塁打、50 盗塁を達成、チームも世界一に輝きました。そのような大谷選手の活躍について語られるとき、大谷選手が高校時代につけていた「夢ノート」のことが言及されます。大谷選手は夢や目標を書いて、実現するように実際に努力してきて、その夢は、ほとんど実現されているということです。そのようなエピソードに反応して、「自分もそうしよう」とか「わが子にも大志を抱かせよう」という人もいるでしょう。それについて、医師であり、『バカの壁』という著書もある養老孟司氏が新著の『人生の壁』で、「努力すればできる」のではないと言われていると紹介している記事がありました。

人間には習性、思考の癖があるので、「自分がこれだけのことをしたから、このような結果になっている」と努力と成果を結びつけることを当然だと思い込んでいるのですが、実際には、そうではなく、自然に勝手に育つのだということです。大谷選手を見習おうとするのは良いのですが、そう思えなくても大丈夫だということです。見習って努力しても、成果が出るとはかぎらず、思えなくてもうまく行く場合もあるからそうです。

養老氏が書いているのは、『『がんばって何かを成し遂げる』ことを過大に評価する背景には、意識が一番えらいと思ってしまうヒト特有の性質があります。自分が（意識して）こうやったからこそ、こういう成果が得られた、と考えるのです。意識が世界を動かしているのだ、と。』しかし、これは、典型的な勘違いで、意識しなくても身体の臓器は動いていると指摘されます。意識はそんなにえらいものでもないのに、人工的な空間でだけ暮らしていると、それを忘れてしまうのだと言われます。それゆえ、養老氏は、できるだけ土や木のある環境で生活しているということです。現在の都市生活がそのまま続くことはないだろうと言われています。（11 月 18 日デイリー新潮＜「誰もが大谷選手を目指さなくていい」 養老孟司さんが「夢を持たなくてもいい」と語る理由＞より）

人間ががんばれば必ず成果があるのではないこと、また、意識がえらいのもないこと、それは、じっくりと考えていると発見できることでしょう。かといって、夢を持たなくても、自然にしていれば勝手に成長すると言われても、どうしたら良いのかと思うでしょう。養老氏は、自然から離れた生活がそのようにしたと言っていますが、実は、すべての人々に「なにに自分ができる」と思い、自分が何かをしようとする根本があります。その根本は、自然から離れたからではなく、すべての人に根本にある「人間はできる」という考えから出ています。その考えを持つようになった理由があり、それゆえ人々は自分から答えを求めてさまようのです。その根本的な理由、そして、ほんとうの答えについて、いっしょに見てみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になり、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださいましたことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」